

研修名	保育内容研修 1 1 (言葉)
日時	平成 2 8 年 1 月 1 9 日 (火) 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0
講演	「ことばの発達」
講師	里見 恵子氏



1 講演要旨

前言語期 (0 歳児) → 言葉の拡大期・充実期。コミュニケーション能力の基盤ができる大切な時期。
大人から自分だけにかけて言葉を受取る。

- ・言葉が発達していると、抑制・探求・集中することができる。
- ・言葉の遅れはその後、ずっと不利になる。

ちょっと気になる子 → 性格として受け止めるのではなく早い段階から、その子に合った支援をしていく。

プレジャーサイン

2 ヶ月—泣き声とは別に様々な声を発するようになり、喃語へと変化していく。

やりとりをする能力を引き出す時期。

この頃にたくさん語りかけたことにより、1 歳頃に出現する発語が豊かになる。

4 ヶ月—相手に何をしてもらっているか分かり始める。

してくれた人 = 心地良い人 になる。

例・足を揺らして遊んだ後 → 自ら足を動かし “やって” と訴えられるようになる。

フォーマットの理解

6 ヶ月—成長の節目。

誰と何をしたか、人と場面をセットで記憶できるようになる。

喜ぶ遊び・関わりを繰り返してしてあげる。満足することにより脳が活性化すると記憶に残る。

※人への関心を育てる。子どもがどのような遊びを喜ぶか見つける。

簡単なやりとり遊びや体を使った感覚遊びを取り入れる。

三項関係

8 ~ 9 ヶ月頃—三項関係 (自分・人や物・行為) を理解できるようになる。

人に対して関わりかける力がついてくる。

1 0 ヶ月—要求行動ができるようになる。

例・大人とボールで遊ぶ。転がったボールが欲しい時、相手の顔を見て “ちょうだい” と訴える。

※子どもが伝達しようとするチャンス。

一旦、遊びを中断して子どもが要求してくることを待ってみる。

やりとり遊びや物を使った遊びを取り入れる。

- ・視線
- ・発声
- ・行為 (指差し・物を渡すなど)

→ 伝達行動・非言語伝達手段

- ・毎日、繰り返した遊びが大切。
遊んでもらったことによって愛着・言語・記憶が育っていく。

社会的参照→1番好きな人の情緒を手掛かりに行動する。

1番好きな人の情緒が安定していると子どもの情緒が安定しやすい。関わる大人の態度・表情が影響する。

※笑顔でゆったりと関わるのが大切。

- ・乳児保育は、リアクションを大きく関わっていく。
- ・子どもの行動を大人が真似をする→子どもが主導権を持つ→主体性が生まれる。
- ・子どもが遊びはじめたことに模倣しながら一緒に遊ぶ。

飽きるまでとことん付き合う。「はい、おしまい。」で中断していたら楽しめない。記憶に残らない。とことん遊ぶことで集中力が育つ。

例・2～3歳児 ままごと遊び

「次、〇〇したら？」ではなく、まず、子どもがしていることを真似てみる。そうすることによって子ども自身、経験したことなどを引き出して遊べるようになる。

語彙の増加

質問をする→探究心がある。言葉の習得・理解につながる。

大人が言って聞かせてみたりやりとりをして言葉を引き出していく。

※強引に言わせる・教えるのではない。

記憶を育てる指示 わかりやすい指示とは？

指示した後「なんだったかな？」と、問いかけ答えさせてみる。

2 感想

言葉の発達段階や段階に合わせた声かけ、遊びの関わり方などについて詳しく聞くことができました。

映像で実際の関わる様子を見ることもでき、普段の自分の保育を振り返ったりする良い機会となりました。

今後の保育に活かしていきたいと思います。



(記録 南山城保育園 大西 香寿美)